

うえだ 環境市民会議 News

第23号
ニュース

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのプロジェクトチームにも参加できます。参加ご希望の方は、生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

この情報誌は自治センター、公民館、図書館、情報ライブラリー、市生活環境課の窓口で配布しております。

発行:うえだ環境市民会議

〒386-8601 上田市大手一丁目11-16

上田市生活環境課内

電話:0268-23-5120

FAX:0268-22-4127

E-mail seikan@city.ueda.nagano.jp

足跡を振り返りながら…

柴崎茂利 (うえだ環境市民会議議長)

地球温暖化が全世界の共通の「課題」として認識され始めました。2005年2月の京都議定書発効により、不参加の国があるとはいえ、各国のCO₂削減目標が決まり、いろいろな角度からの削減活動が展開されています。これらの活動には、国家レベルの大規模なものからNGO、NPO形態に至るまで千差万別の活動が報道されています。

さて、うえだ環境市民会議は、平成15年に発足して、早2期4年が過ぎようとしています。直近の2年間私は議長として係わりました。17年度には「豊かな自然と共生するまち—上田」をスローガンに掲げ、「自然の恵みに包まれたまち」「安心と健康があふれるまち」「ゴミゼロのまち」「地球温暖化防止を進めるまち」を目標にして、会員はそれぞれの思いを持ちながら、様々なPT(プロジェクトチーム)を作り、積極的な活動を展開してきました。また、各種講演会や環境施設見学会等を企画開催し、参加された皆さんの知識・見聞が深まると共に、楽しい時間・満足していただける時間になる様に努めました。しかしながら、必ずしも皆さんのご期待に添える事が出来ませんでした。

ところで、この4月に長野で地球温暖化に係わる映画が上映されました。これは「不都合な真実」(著者:アメリカ元副大統領アル・ゴア)の映画化されたもので、アメリカでも大きな反響を呼んだとの事です。当該書の中で、人間社会(経済優先社会?)にとって「不都合」な「真

実」を認めようとしなない人々がいる、深刻な地球温暖化の現実を直視してほしい、今から出来る事から始めてほしい、と著者は呼び掛けています。一方で、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)による各種統計的数値の発表を見る限り、地球温暖化は確実に進行していると言わざるを得ません。

私たちは、日常生活の中で深刻な環境破壊を体験していませんが、小さな環境変化を見たり聞いたりしています。私たちは、自分で出来る小さな自然環境保護活動や環境保全活動をしましょう。一人ではその元気が出ないとか、結果が小さすぎて見えず張り合いが無い、というような方は、ぜひ、当うえだ環境市民会議にお入り下さい。私たちと一緒に楽しく活動しましょう。

2年間をふり返って

うえだ環境市民会議副議長 布施教子

時の経つのは早いもので2年間はあっという間に過ぎてしまいました。地球温暖化防止活動をもっともっと進めなければならない状況に来ているにもかかわらず浸透していきません。

日ごろ疑問に思っていることなのですが、庭や畑から出る木や枝、草等をごみとして有料袋に入れて出し、焼却処分されてしまうのはもったいないことです。昔は枝一本でも大切に燃料にしていました。草や生ごみも堆肥に変えて利用しました。砂漠化が進行している国では一本の枝も争って取り合いしています。今の日本は豊かに見えますが、外国の資源に依存して成り立っていることを忘れないでいたいものです。

また、温暖化抑制のためにバイオガソリンが試験販売され始めました。そのため、食用油が値上がりしてマヨネーズも値上げ等というおかしな問題も出てきました。それよりも、公共交通機関をもっと充実させたり、郵便、宅配便を一本化して車の使用量を減らす、自家用車も効率的に使う等、まだ考えればいろいろあると思います。

うえだ環境市民会議では、「環境博士」のポイント記

録で自らの保全活動を見直しています。私が所属しているプロジェクトチーム「子どものための環境紙芝居づくり」では、紙芝居を2年かけて作りました。食育、温暖化防止、物や生きものを生かす暮らし等、様々な場面を想定しました。子どものためだけでなく、作成した私達も大変勉強になり楽しい作品になりました。貸出しもいたしますので声をかけてください。これからもコツコツと活動を続けて参ります。

第12回うえだ環境市民会議が開催されました

3月26日に「第12回うえだ環境市民会議」が上田市中央公民館で開催され、約50名の参加がありました。当日は、環境講演会とプロジェクトチームの活動報告が行われ、最後に子どものための環境紙芝居づくりプロジェクトチームによる環境紙芝居の上演もあり、大変盛り上がりしました。

環境講演会では星野リゾートで環境マネジメントを担当されている塩手勝久氏により「星野リゾートの環境経営」と題して講演して頂き、ごみゼロ、エネルギーの自給自足、地域の自然の保全活動など星野リゾートが実践している様々なすばらしい取り組みを知ることができました。講演会の感想をお寄せ頂きましたので以下にご紹介します。



▲子どものための環境紙芝居

披露宴でメニューが選べる

前田光俊

どんなに華やかなパーティーでも、出てくる料理が口に合わなかったら、宴そのものが台無しになりかねません。

星野リゾートでは、当日メニューが選択できるというのですから驚きです。努力を重ねて、それを実現させ、その結果食べ残しが16%も減ったそうです。

私たちが日常の生活の中から、このような『発想の転換』で環境問題を一つひとつ解決していけるのではないかと、思いました。

「星野リゾートの環境経営」を聞いて

安井啓子

講師の塩手さんのエネルギーギッシュで示唆に富んだ話に引き込まれて聞き入った。特に印象深かったのは、会社一丸となったゼロエミッションの取り組みだ。これを、「組織文化の変革」と位置づけ、変革のプロセスを明らかにすると共にきめ細かな対応で、

確実に結果を出すという姿勢に圧倒された。ごみは29に分別され、理解をうながすためのトレーニングツールとして、ごみ分別ゲームを作ったり、従業員のアイデアを取り入れて、絵やイラストをゴミ箱に貼って、誰でも簡単に実践できるような工夫もされている。これらは、参考にしたい実践事例のひとつだと思った。

地熱利用から古井戸再利用へ

竹内秀夫

星野リゾートのエネルギー自給率は約70%で、20%は敷地内を流れる河川を利用した水力発電。残りの50%が地下400mの20度の地熱を利用した空調と給湯だそうだ。

一般家庭で水力発電したり、地熱利用したりするのは難しいだろうが、昔使われていた古井戸を再利用することはできるかも知れない。地熱利用の話聞いてそう思った。私が子どものころ慣れ親しんだ井戸水は夏冷たく、冬温かだった。これは水温が年間を通して10数度とほぼ一定していたからであり、理屈は地熱と一緒にのだが…。